

「あしな蘆名の執権」の血を受け継ぎ 刀を内視鏡に持ち替え診療に専心

医療法人かながみじんゆうかい金上仁友会 金上病院

医療と介護・在宅のシームレスサービス
— 先端連携システムの見学・体験も可能 —

天保14(1843)年からこの地域で医療に携わってきた金上病院。地域に根差し、患者さん目線での医療と介護との連携、そして在宅診療に力を注いでいる。理事長の安藤正夫氏、副理事長の安藤由紀子氏に、金上病院の歴史や特徴を伺った。

金上病院、安藤正夫理事長のルーツは、安土桃山時代に活躍した金上氏である。金上氏は、新潟県にある津川城の城主だった。特に有名なのは、戦国ゲームにも登場する金上盛備。会津地方を治めていた蘆名氏の重臣で、政治・外交手腕が高く、「蘆名の執権」とまでいわれ、蘆名の全盛期を支えてきた。摺上原の戦いで、伊達政宗の軍と対決している。

安藤理事長は、角田における医療として七代目になる(先々代院長・金上良仁氏が母方祖父)。専門としては、全国屈指の大腸内視鏡スペシャリストとして高い評価を受けてきた。この分野にて米国のベストドクターズ社から「Top

Best Doctors in Japan に連続選出されている。

学生時代は剣道部で心身を鍛えた。「今は槍や刀の代わりに内視鏡を駆使しています」と笑う。

宮城県医師会常任理事を務める安藤由紀子副理事長とともに、地域包括ケアシステムの構築と深化を日々模索している。グループ内には介護施設も多数あり、スタップ一丸となって多職種協働による医療と介護の連携に力を入れている。これらのシステムを含め、県の事業で多数のロボットを導入した施設などもあり、興味があれば誰でも見学や体験が可能だ。

また、パートも含め全職員用の保育園を1987年から整備す

るなど、働きやすさにも配慮。出産や子育てと仕事の両立をバックアップしてきた。医師も常勤医5名中3名が女性で、皆この保育園を利用した。2018年の秋、これらの取り組みが評価され、宮城県医師会の「第2回イクボス大賞」を受賞している。

地域の中核病院との連携を密にし、また大学病院の応援を受けて各種専門外来を開設するなど質の高い医療を提供。地域救急にも可能な限り対応している。

最後に理事長から「この地域は看護・介護スタッフの不足が深刻です。いろいろな働き方に応じられますので、是非声がけください」とのことであった。

多方面から地域を守る熱い志を感じる病院である。



グループの皆さんと保育園の子どもたち。休診日の突然の呼びかけに集まってくれた



医療法人金上仁友会 金上病院
理念は「地域に信頼される誠実な医療・介護」

医療法人 金上仁友会 金上病院

角田市角田字田町123 TEL.0224-63-1032

診察時間は科によって異なる

詳しくはホームページで確認

金上病院

検索